

## 役員

### 理事長

有山正孝(電気通信大学名誉教授・元学長)

### 副理事長

藤崎聡達(東大名誉教授,元南京大学招聘教授)  
山脇道夫(福井大学特命教授,東大名誉教授)

### 常務理事

紺野大介(ETT 理事長、清華大学招聘教授)  
永崎隆雄(事務局長、元 JAEA 北京事務所所長)

### 理事

有馬朗人(日本科学技術振興財団理事長、元東大総長、元理研理事長、元文科省大臣)  
安藤 亘(筑波大学名誉教授)  
井形直弘(東京大学名誉教授)  
伊藤 学(東京大学名誉教授)  
岡田雅年(物質材料研究機構名誉顧問、瀋陽金属研究所名誉教授、元金属材料技術研究所所長)  
上坪宏道((財)元高輝度光科学研究センター副会長)  
小松彦三郎(東京大学名誉教授)  
鈴木 伸(千葉大学名誉教授)  
鈴木基之(東京大学名誉教授、放送大学教  
国連大学特別学術顧問・元副学長)  
堂山昌男(帝京科学大学名誉教授、東京名誉教授、  
蘭州大学名誉教授)  
早川典生(長岡技術科学大学名誉教授)  
宮崎 清(千葉大学教授、元副学長)  
山岡亜夫(千葉大学名誉教授)  
近藤昭彦(千葉大学教授)  
坂田文彦(茨城大学名誉教授、河南大客員教授)  
曾我文宣(医用原子力技術研究振興財団調査参  
与、NPO 国際総合研究機構副理事長)

### 監事

梶井 功(東京農工大学名誉教授・元学長)  
益田隆司(電気通信大学名誉教授・元学長)

### 名誉会員

近藤次郎(東京大学名誉教授、元学術会議会長)

## 設立の趣旨と沿革

長い文化交流の歴史を持つ一衣帯水の国、日本と中国の関係は、20 世紀前半の悲しむべき戦争の期間中、断絶状態にありました。戦後、両国間の学術・文化の交流を速やかに復活させようとする努力は、両国間の国交正常化に先立って 1950 年代半ばから、日本学術会議・日中友好協会などによって始められました。科学技術の分野でこの運動の中心となったのは茅誠司先生・朝永振一郎先生をはじめとする当時の日本学術会議会員の方々でした。途中で紆余曲折はありましたが、志を同じくする人々によって細々と始められた科学者・技術者の派遣・交流を通じて、相互の理解と友好が徐々に、しかし着実に深められました。

日中科学技術交流協会は、これら交流の先駆者により、日中間の学術交流を一層確実にするための中核となることを目指して 1977 年 12 月に設立されました。

以来四半世紀にわたって当協会は多くの科学者・技術者を中国に送りまた中国から受入れ、多くの学術的講演や日中合同のシンポジウムを企画・開催する等の活動を続けてきました。

この間、当協会が最も密接な連携を保ってきた中国側の機関は中国科学院ですが、必要に応じて中国国家科学技術委員会、国家教育委員会、中国科学技術協会等、及びそれらの傘下の諸学会・大学・研究機関とも交流関係を持ってきました。また駐日本国中国大使館の科学技術処・教育処からもご助言・ご支援をいただいております。

中国における科学技術の水準の急速な向上と開放政策の進展の結果、両国間の科学技術交流のあり方は新しい段階を迎えています。

当協会も 2006 年 5 月、特定非営利活動法人として認可を受け、体制を洗ったに新たにしました。私どもは、1977 年の設立の対等・互惠の精神を堅持しつつ、その歴史と伝統を基盤に、新しい時代の変化に対応して、新しい切り口で、新しい特定非営利活動の理念を加味し、広く日中両国民に役立つ事業活動を行っていく所存です。

特定非営利活動法人

## 日中科学技術交流協会

Non Profit Organization  
JAPAN—CHINA SCIENCE  
AND TECHNOLOGY  
EXCHANGE ASSOCIATION  
(JCSTEA)

## ご案内

2014 年 7 月

〒103-0003

東京都中央区日本橋横山町 3-1

横山町ダイカンプラザ 302 号室

電話 03-6661-7929

FAX 03-6661-7929

E-mail: jcstea@alpha.ocn.ne.jp

URL: <http://jcst.in.coocan.jp/index.html>

都営新宿線 馬喰横山 徒歩 2 分

JR 総武快速線 馬喰町 徒歩 2 分

都営浅草線 東日本橋 徒歩 4 分

日比谷線 小伝馬町 徒歩 5 分

## 交流事業の概要

この法人は広く日中両国民を対象に、両国の科学技術交流を強化発展させる事業を行い、両国における科学技術の進歩とこれによる生活環境の改善を図り、以って両国国民の福利と友好親善の増進に寄与することを目的とし、下記の特定非営利活動を行います。

### ①学術の振興、②環境の保全、③国際協力、④科学技術の振興

#### (1) 科学技術交流事業

日中両国の科学者・技術者の訪中あるいは訪日に際し、情報提供・紹介・推薦・斡旋等の支援を行います。

また科学技術の分野における視察団を企画・派遣し、あるいは受け入れています。

#### (2) 科学技術講演会・報告会・研究会・講習会・教育訓練などの開催事業

日中合同のシンポジウムを主催または共催しています。テーマはそれぞれの時期に日中双方にとって重大な関心のあるものを選んでいきます。規模は様々で参加者数 30 名程度のものから 200 名余に及ぶものもあり、会期は概ね 2~3 日です。

その他にも小規模のシンポジウム・講演会等を随時主催・共催あるいは後援しています。また訪中視察団を随時企画し派遣しています。

#### 近年の活動

- 1) 第二回環境水処理シンポジウム 2014 年
- 2) 第四回日中電子材料シンポジウム 2014 年
- 3) No2 日中大学間核燃料学術討論会 2013 年
- 4) 第一回日中加速器科学シンポジウム 2013 年
- 5) 第三回日中電子材料シンポジウム 2013 年
- 6) 第三回諸言語の音調国際討論会 2012 年
- 7) 広東省環保庁と核安全防災交流 2012 年
- 8) 信号処理国際会議 ICSP2012 2012 年
- 9) 第 11 回先進エネルギーシステム材料と核分裂・核融合工学 日中シンポジウム(共催) 2012 年
- 10) 第二回日中電子材料シンポジウム 2011 年
- 11) 福島原発事故の意見交換訪中団 2011 年
- 12) 精密加工・水処理技術移転訪中団 2011 年
- 13) 第一回日中電子材料シンポジウム 2010 年

- 14) 第 10 回先進エネルギーシステム材料と核分裂・核融合工学 日中シンポジウム(共催) 2010 年
- 15) 重慶大学来日 2010 年
- 16) 海南島科学技術部訪中団 2010 年
- 17) 深圳市科学技術庁 来日交流 2009 年
- 18) 科学院招待青年訪中団 2009 年
- 19) 広東省科学技術庁来日 2009 年
- 20) 上海科学技術協会来日交流 2009 年
- 21) 香港專業教育學院 来日交流 2009 年
- 22) 中国原子力メーカ実態調査団 2009 年
- 23) 黒龍江省水利庁と交流(共催) 2008 年
- 24) AEARU Joint Workshop ICASS07 International Collaboration for Asian Sustainable Society 南京・無錫 2007 年
- 25) 第9回先進エネルギーシステム材料と核分裂・核融合工学 日中シンポジウム(共催) 桂林 2007 年
- 26) 上海・合肥原子力機関交流団 上海・合肥 2007 年
- 27) 北京エネルギー関係研究所交流団 北京 2007 年
- 28) Eco-Design (清華大共催) 北京 2006 年
- 29) 信号処理国際会議(共催) 桂林 2006 年
- 30) 中日科学技術セミナー 東京 2006 年
- 31) 協会 NPO 法人設立訪中団 北京、上海 2006 年
- 32) 中国の環境・エネルギー問題と日中協力展望セミナー 東京大学 2006 年
- 33) 第 2 回日中環境シンポジウム(主催) 貴陽 2005 年
- 34) 第8回「先進エネルギーシステム材料と核分裂・核融合工学 日中シンポジウム」(共催) 東北大学 2004 年
- 35) 循環型社会の創造のための現地調査(主催) 貴陽、北京 2003 年
- 36) 循環型社会の創造をめざして(共催) 北京 2002 年
- 37) 日本バイオテクノロジー科学技術視察交流訪中団派遣(主催) 北京 2002 年
- 38) 清華大学創立 90 周年中日産業協力シンポ(後援) 東京 2001 年
- 39) 蛋白質物理学と水和効果シンポ(主催) 東京 1999 年
- 40) 日中石炭 C1 化学シンポジウム(後援) 蔵王 1998 年

#### (3) 科学技術分野の優良表彰

篤志の方々のご寄付を基金として、中国からの留学生諸君の内、特に優秀な研究業績を挙げた方々に研究奨励賞とし賞状と副賞 10 万円を贈呈しています。1987 年以来現在までに野上茂吉郎記念研究奨励賞、伏見康治研究奨励賞、高度自動化研究奨励賞、天田科学技術研究奨励賞、有山兼孝記念研究奨励賞、環境科学研究奨励賞、菅野昌義記念研究奨励賞、向坊隆記

念研究奨励賞の各奨励賞が設けられ、2012 年度までの受賞者数は 128 名に達しています。

#### (4) 科学技術普及事業

a) 会報「日中科学技術」を年 4 回刊行し会員に配布しています。

b) 中国から提供された資料の翻訳、シンポジウム報告書等を随時刊行、会員に配布または頒布します。

#### (5) その他、目的を達成するための事業

日中合同の科学技術にかかる交流事業で理事会が適当と認めたものを実施／支援します。

## 入会のご案内

本会の趣旨に賛同される方の入会を歓迎します。

### 会員の種別

- 【正会員】 個人 特定非営利活動促進法の社員  
会費年額 10,000 円
- 【学生会員】 学生・生徒及び研究生  
会費年額 5,000 円
- 【賛助会員】 団体 会費年額 一口 100,000 円
- 【名誉会員】 この法人に多大の貢献した方で総会が推薦した方

### ご入会の特典

- 日中科学技術交流について提案できる。
- 当法人の交流事業に参加できる。
- 会報ほか本会発行資料・刊行物の頒布を受ける事ができる。
- 当法人保有の中国科学技術情報の提供、中国科学技術関係機関への紹介・推薦等の便宜を受ける事ができる。
- 本法人開催シンポジウムその他に会員料金で参加できます。また、連携している他学会、協会、機構の講演会案内が得られる。

### ご入会の申し込み

会員として入会を希望される方は、本会ホームページ:

<http://jcst.in.coocan.jp/>

から入会申込書をダウンロードしてご記入の上、下記 Mail 又は FAX へお申し込みください。理事長より、会員入会承認証と会費お振込み請求をお送りいたします。

宛先 E mail: [jcstea@alpha.ocn.ne.jp](mailto:jcstea@alpha.ocn.ne.jp)

FAX : 03-6431-0466